

最優秀賞

人ごとじゃない土砂災害

豊橋市立福岡小学校 6年 芳賀 創介

ぼくの家は、大雨がふるといつも駐車場が水びたしになる。家の前のそっこうも水があふれ、たくさんの水がふき出している。それを見ると、いつも大雨ってこわいなと思う。

夏休みにも、日本のいろいろな場所で大雨がふり、「土砂災害警かい情報」を伝えるニュースが流れてきた。多くの人たちが家か大切な物を失い、深い悲しみにくれている。ぼくは、夏休みに山梨県に旅行に行った。行くと中で実際に土砂災害の現場を目のあたりにする機会があった。テレビのニュースや新聞で見る光景とはまったくちがう現実があった。家屋はべちゃんこになり、生活に使っていた物がどろ水に飲まれ、土砂にうもれていた。その様子は、自然の大きな力のおそろしさをまざまざと見せつけるものだった。この光景を見たとき、（豊橋市は、本当に安全なのか。）と心配になった。災害が起って初めて、その危険性に気づく。それでは、人の生命や生活を守ることはできないと思う。そこで、ぼくたちにできることについて、調べることにした。土砂災害から生命を守るためには、ぼくたち一人ひとりが、自分の生命を守るための行動「自助」を意識することが大切だということが分かった。そこで、お父さんとお母さんと話し合っ、具体的にどのような「自助」をすれば良いのか、考えることにした。そして、つぎの三つのポイントが大切だと考えた。

一つ目に、防災にかんする情報を知ることだ。豊橋市役所のウェブサイトにのっているハザードマップを確認した。ぼくの家や通学路が、どれくらい危険な場所にあるのかを知ることができた。また、土砂災害には、しゃ面からの水のわき出し、小石がパラパラと落ちてくる音など、前ぶれがあることも知ることができた。知識は、いざという時の判断を助ける大きな材料になることが分かった。

二つ目に、家族でひなん計画を立てることだ。災害が起こったらどこに集まるのか、だれが何を持ってひなんするのか、連絡手段はどうするのか。この三つについて、家族で話し合っておくことで、パニックになってもスムーズに行動できると思う。また、非常持ち出しぶくろを準備して、定期的に中身をチェックする。ぼくの家でも、中身をチェックしたら、かい中電灯のライトがつかなくなったり、水や食料の期げんがきれていたりしたので、新しい物に交かんした。少し大変だったけれど、これも生命を守る上では欠かせないと思った。

最後に、ひなんのタイミングを見極めることだ。テレビのニュースを見ていると、ひなんするのが遅くて土砂災害のひ害にあっている場合が多い。調べてみると、土砂災害は、地しんのように一しゅんで発生するわけではない。ほとんどの場合、大雨がふり続いてから発生する。だから、危険を感じたら早めのひなんをすることが生命を守るポイントとなる。豊橋市が発表するひなん情報はもちろん危けんを感じたら、家族で行動する勇気をもつことが大切だ。「自分は大丈夫。」という油断は、生命とりになることがある。

土砂災害は、決して他人事ではない。日本のどこにでも起こりうる、身近な問題だと思う。ぼくたちは、自然のきょういとしてあきらめるのではなく、「自分たちの問題」として考え、

毎日の生活の中で防災意識を高めていくことが大切だと感じた。

優秀賞

災害にそなえて私にできることは？

犬山市立犬山南小学校 4年 勢力 楓子

私は今年の七月三十日に愛知県の消防学校の一日入校体験をしました。本来なら、映像学習や規立体験もするはずでしたが、その日にカムチャッカ半島での大地震のえいきょうで愛知県にも津波けいほうが出たためできませんでした。先生たちがあわてている様子を見て初めて災害を身近に感じました。今年も九州や北陸で大雨によって土砂災害がおきたというニュースを見ました。今までは、あまり自分とは関係ないと思っていましたが、今回消防学校の予定が変こうされ、「にげる」ということを経験して、初めて「こわい」と感じました。だから、日ごろから、災害のそなえが必要だと思いました。そして、いざという時のために、私にできることをふやしておく必要があると、感じました。

私は、この消防学校の体験を通して、三つのことができるようになりました。一つ目は、ロープをほどけずに結べるようになりました。たとえば、ひなん所に弟を連れていくときに、手をつなぐだけでは、はぐれてしまうかもしれません。でも、ロープを使えば弟をすばやくひなん所に連れていくことができると思いました。二つ目は心ぞうマッサージができるようになりました。心ぞうマッサージは一定のリズムで力強くおしつづける必要があるため、ふく数の人と協力して行うものだと思いました。もし、そのような場面があれば、私もそっ先して協力したいです。三つ目は包帯をまけるようになりました。けがのひどさや種類によってまき方が変わるので、ひなん所でけがをした人を見つけたら手あてをしてあげたいです。この消防学校での体験を通してできるようになったこの三つは、どれも大切なことだと思うので、いざという時に、きちんと使いこなせるようになっておきたいです。そのために、ふだんから練習をしておこうと思います。防災グッズをじゅんびしておくことと同じくらい大切だと感じたからです。

消防学校での体験を家族に話した時に、母から10年前におこった東日本大震災や、広島での土砂災害の話を聞きました。こわれたり流されたりする家のえいぞうが、とてもこわかったと話していました。災害はいつくるか分からないので、ふだんから、家族とひなん所をかくにんしたり、防災グッズをそろえたりすることが大切だと言われています。そのため、消防学校での体験を話した時に、家族で犬山市が出しているハザードマップをかくにんしました。私の住む家の周辺は、土砂災害のきけんはないということを初めて知りました。しかし父の通きん経路は、土砂災害のきけん地いきでした。だから、父は大雨の時は、ちがう道を通ろうと話していました。今まで、家族でハザードマップをいっしょにかくにんすることがあまりなかったので、良い機会になりました。

災害はいつおこるか分からないということを、今回津波から「にげる」という経験をして、本当に感じました。だから、ふだんから家族と災害のそなえをしたり、私にできることをふやしたりすることが大切だと思います。

優秀賞

デジタルとぼくの防災

豊田市立浄水小学校 6年 竹國 隼登

ある日、テレビのニュースで大雨のあとに山が崩れ、家や道路が一瞬で土砂にのまれてしまう映像を見ました。人が住んでいた場所があつという間に茶色い土に埋もれていく様子は、とても恐ろしく、目をそらしたくなるほどでした。それ以来、もし自分のまわりでも同じことが起きたらどうすればいいか、真剣に考えるようになりました。

そんな時に思い出したのは、兄が学校の授業で作った「防災ゲーム」です。土砂災害や洪水が起きたときに、どう避難すればいいかをクイズやシミュレーション形式で体験できるゲームでした。クラスみんなが夢中になって遊びながら、「早めに逃げるのが大事だね」とか「非常用バックに何を入れたらいいか知っておかないと」と話していました。ゲームなのに気がつけば真剣に防災について考えていたのです。ぼくはその様子を見ていて「遊びと学びをつなぐデジタル技術ってすごい」と思いました。

去年の夏、大雨で近くの山の斜面が一部崩れたとき、父のスマホで雨量データの地図を確認しながら、「あと何時間で危険が高まるか」を家族に説明してくれました。母は近所のおばさんにLINEで連絡し、「一緒に避難しよう」と声をかけていました。その姿を見て、デジタル技術が「正しい判断」を助けてくれていることを実感しました。

さらにニュースでは、ドローンを使った土砂災害の監視や、AIによる危険予測のことも知りました。ドローンが山の斜面を飛んで写真を撮り、AIが「この斜面は崩れやすい」と判断して知らせしてくれるそうです。もし自分の町にもその仕組みがあれば、裏山が少しずつ崩れているのを事前に知ることができたかもしれません。人の目では見えにくい小さな変化をデジタル技術が見つけてくれるのです。

しかし、一番大事なのは「最後に避難するのは人間」ということだと思います。アラートが鳴っても「たいしたことない」と思って逃げ遅れる人がいたら、どんな技術も意味がありません。だから、デジタル技術と人の心をつなげることが必要です。たとえば、兄のゲームのように「遊びながら考える」仕組みがもっと広がれば、子どもも大人も自然に防災意識を高められると思います。

将来、プログラミングなどを勉強して「子どもでも使える防災アプリ」を作りたいです。大きな字でわかりやすく、ボタンを押すと音声でも案内してくれるようなアプリです。そこに兄のように「ゲーム感覚で学べる機能」を入れれば、楽しみながら学べるはずです。もし世界中の子どもたちが同じ仕組みを使えたら、地震や洪水の国でも役立つかもしれません。デジタルの力で国境をこえて助けるなんて、とてもワクワクします。

土砂災害は恐ろしいものです。でもデジタル技術と人の協力を組み合わせれば「守る力」に変えることができます。ぼくはこれからも地域の防災訓練に参加して、家族や友達と一緒に声をかけ合い、そしてデジタルの力も信じていきたいです。未来の自分が大人になったとき、「あのときの経験を活かして多くの人を守れた」と胸をはれるように。

佳作

土砂さいがいをはじめて知った

半田市立さくら小学校 3年 伊藤 刹那

ぼくはマンションに住んでいるので、こうずいや土砂さいがいは、自分にはあまりかんけいないと思っていました。

学校では、火事やじしんやつなみのひなんくんれんはやった事があるけれど、土砂さいがいがどんなひがいになるものなのか、ぼくはよく知りませんでした。

お父さんもお母さんも、土砂さいがいにあった事がないので、話を聞く事もできませんでした。だから、タブレットをつかって調べてみました。でも、さいがいのページはぼくにはむずかしかったので、動画を見てみる事にしました。

土砂さいがいの動画では、車や家が大きなどろの水に流されて、あとかたもなくなっていました。水はとても早くて、車でもにげられないほどでビックリしました。

動画をいくつも見て、日本中で土砂さいがいが起きている事が分かりました。とてもこわかったです。

ぼくは、前に家族で信州に行った時の事を思い出しました。山の一部に木が生えていなくて、地面がむき出しになっているところがあったのです。動画を見たあとで、お母さんに「あの場所は土砂くずれがあったところなの？」と聞いてみました。お母さんは「たぶんそうかもしれないね。このへんは山が少ないからあまりないけど、山の近くの町ではよくあるんだよ」と言っていました。

ぼくは、「もし家族と遊びに行くときちゅうで土砂さいがいが起きたらどうしよう」「半田市でも土砂さいがいが起きたらどうしたらいいんだろう」と、どんどんこわくなっていきました。そこでまたお母さんに聞いてみました。

お母さんは、「大雨の時は山のあるところは家族で遊びに行かないよ。半田市では土砂さいがいはおきにくいよ。きけんな場所のところには「ハザードマップ」という地図にのっているんだよ」と教えてくれました。

また、「さいがいはいつ起きるか分からないから、あらかじめきけんな場所を知っておいたり、大雨のときに近づかないようにしたりすることが大事なんだよ」とも教えてくれました。

さいがいそのものをふせぐことはできないけれど、じゅんぴをしたり、にげる場所を知っておいたりすることはとても大切で、今のぼくにもできることだと思いました。だから、お母さんといっしょに市やくしょに行って、「ハザードマップ」をもらってこようと思います。

佳作

土砂災害について思った事

半田市立さくら小学校 5年 伊藤 沙羅

私はマンションに住んでいるので、洪水や土砂災害は自分には関係のないことだと思っていました。学校では火事や地震の避難訓練はしたことがありますが、土砂災害についてはあまり習った事がなく、今回のテーマで初めてちゃんと考えました。

弟も同じテーマだったので、一緒にお父さんとお母さんに話を聞いたり、本やインターネットで調べたりしました。でも、お父さんもお母さんも愛知県出身で、近くに山がない場所に住んでいたのも、土砂災害にあった事はないそうです。だから、実際の体験などのくわしい話は聞けませんでした。

私は国土交通省のホームページで調べてみましたが、漢字が多くてむずかしかったのも、動画で調べる事にしました。土砂災害の動画では、家や車がどろ水に流されて、あとかたもなくなってしまいました。すごいスピードで土や水が流れてくるので、車でもにげられないのを見て、とてもこわくなりました。

いろいろな動画を見て、日本のあちこちで土砂災害が起きている事がわかりました。

私は、去年家族で高山にドライブに行ったときに見た山を思い出しました。そこは木がなくて、土が見えている場所がありました。

あのときは気にしなかったけれど、今思うと、あそこも土砂くずれがあった場所だったのかもしれない。

その事を思い出して、動画を見たあとでお父さんに、「高山で見たあの場所って、土砂くずれがあったところなの？」と聞いてみました。お父さんは「たぶんそうだろうね。このへんは山が少ないから土砂災害はあまりないけど、山の多い町ではよくあるよ」と教えてくれました。

それを聞いて、私は「もしドライブのとちゅうで土砂災害にあったらどうしよう」「半田市でも起こる事があるのかな」とこわくなりました。お父さんにたずねると、「大雨の日には山の方へドライブに行かないし、半田市ではあまり土砂災害はないけれど、どこが危ないかを知るために「ハザードマップ」という地図があるんだよ」と教えてくれました。

そのとき、私は学校の帰り道で見た川の工事を思い出しました。大きな鉄のくいを川の岸に打っていたので、「あれも土砂災害のたいさくなの？」と聞くと、お父さんは「ちょっとちがうけど、大雨で川の土手がくずれたり、こわれたりしないようにしている工事だよ」と教えてくれました。そして「川の上流では土砂災害で川がつまって、水があふれて下流の町が洪水になる事もあるんだ」とも言っていました。

この話を聞いて、私は土砂災害だけではなく、ほかの自然災害もいつ起こるかわからないし、気を付けないといけないと思いました。ふつうの日歩いている場所でも、大雨がふったときには危ない場所になる事があるのだと知ってビックリしました。

お父さんが言っていたように、自然災害を止める事はできないけれど、じゅんぴをしてお

いたり、どこが危険かを知っておいたりする事は大切です。にげる場所やタイミングをまちがえたら、命にかかわる事もあるので、家族みんなで話し合っておく事が大事だと思いました。

だから私は今度、お父さんと弟と一緒に市役所へ行って、「ハザードマップ」をもらってこようと思います。そして家族でにげるルートを考えたり、雨の日どこへ行ったらいけないのかを話したりしたいです。

土砂災害の事を調べて、とてもこわかったけれど、何も知らないより、ちゃんと知っておく事が自分と家族の命を守る事につながると思いました。これからはいろいろな災害について学んで、こわがるだけでなく、行動できるようにしたいです。

佳作

土砂災害から身を守る

豊橋市立福岡小学校 6年 忠内 響平

二千二十四年に能登半島地震がおきてしずまった時、今度は石川県あたりで大雨が降り能登半島の各地で土砂くずれがおきたということをテレビで知りました。今もひんぱんに大雨が降っています。豊橋市の山の方に住んでいる親せきのお婆さんの所に大雨が降ったら、土砂災害がおきてまきこまれてしまう。そう思ったら心配になって土砂災害の作文を書こうと思いました。

土砂くずれはとつぜんおきていっしゅんで家などが飲みこまれていくので、土砂災害はおきる前兆に注意することが大切です。川の水が茶色くなったり土のにおいがしたり、山から雷のような音や岩がぶつかり合う音がきこえたら、にげないと土砂くずれにまきこまれてしまうので、すみやかにひなんすることが大事だと思います。最近は森林ばっさいで木が減っています。木の根は山の土をささえてくれて、大雨が降ったときに木が雨水を吸いこんでくれる若い木を植樹することが土砂をくずれないようにします。

植樹をすることは土砂災害の対策としてはいいことだとは思いますが、なかなかすぐ計画して始めることはできないから、みんなが土砂災害に関心をもつことが、必要だと思います。自然な環境にもどすには、時間がかかるので自然は大切にしないといけないなと思いました。

土砂災害は、ニュースやインターネットで情報を得ることができます。気象庁などが発表している警戒レベルなどを見て、ひなんをするといいと思います。

日本のいろいろな地域で大雨は降っていて、ぼくが4年生のときも降りました。学校からかえるのがおそくなったり、家の近くの川がはんらんしそうになったりしていて、大雨が山の方で降ると土砂くずれがおきるのかなと思いました。

学校で災害の話をしてもらっても、1人1人が取り組まなければ身を守ることはできないから、もっと災害のことをみんなが知ることが大切だと思います。大雨の災害についてくわしく知って、備えることが大切なので、防災グッズを備えて、ハザードマップを確認して、いつ大雨が降ってもいいように毎日気をつけていれば防災ができるのではないかと思います。

一つの地域が防災を実現することによってそれがどんどん広がり、全国で防災をみんなが協力して災害のことを意識できればいいなと思いました。この作文を書いている途中で九州で大雨が降っていることを、テレビで見て各地で土砂くずれがおきたことを知りました。人がまきこまれた土砂くずれのほとんどがハザードマップの危険な区域と言っていました。それをきいて、ハザードマップはただどこが危ないかを確認するだけではなく行きたい場所や家や学校までの道の途中で危ないところはないかを確認しておくことが大事だなと思いました。

ぼくのお母さんの妹は、九州に住んでいます。お婆さんにどんな状況かをきいてみたら大

丈夫だといっていたので安心しました。

ぼくは土砂災害を経験したことはありません。でも、全国各地で土砂災害がおきています。最近では熊本県で、たくさんの土砂くずれがおきていたので、ひとごとではないなと思いました。その中で人がまきこまれてしまったがけくずれがありました。今まではテレビでも山がくずれているところしか見たことはなかったので、こわいと思ったけれど、知れてよかったなと思いました。ニュースを見ていてすごい雨が毎年降っているように感じました。地球温暖化によっておきていると思います。大雨が降ると土砂災害があるので、大雨がさらに増えれば土砂災害も増えます。自動車から二酸化炭素が出なければ地球温暖化も減ると思うので、大雨が減って、土砂災害も減ると思います。土砂災害は町の方ではほとんどおこることはないです。だから、川から土砂や木などが流れてくることに用心しないといけません。もしおきたときに被害にあいやすいので、やっぱり災害を知ることが大切だなと思いました。だれかが土砂災害にあってしまったら、ぼくはいちはやくかけつけて、救助をしたいと思います。少しでも災害が減るように努力していき、災害のこわさをうたえていけたらいいです。

佳作

土砂災害防止について

豊橋市立福岡小学校 6年 瀬戸 陽衣愛

私は土砂災害について調べようと思い調べてみました。

調べようと思った理由は、梅雨入りして土砂災害が多くなりテレビで土砂災害で家がくずれて人が亡くなりました。などを見て夏休みに作文で書こうと思ったからです。

土砂災害防止について調べて山のちかくに住まない方がいいなと思いました。土砂災害を防ぐためには砂防堰堤や擁壁などの施設を設置して、土砂の移動を物理的に抑制します。ほかには、ハザードマップの作成・周知、避難場所の確保、警戒避難体制の整備が大切だなと思いました。

ハード対策とソフト対策があり、ハード対策は、砂防堰堤を設置して土砂の移動を物理的に抑制します。ソフト対策は、ハザードマップの作成・周知、避難場所を確保する、などがあります。実際に土砂のひ害にあった人は防災意識の向上や減災対策を考える上で非常に重要です。

広島で二〇十四年におきた土砂災害では、七十七人が死亡してしまい、幼い兄弟がぎせいになってしまった。それでお母さんは、「もっとはやくにげていればよかった、くやしい」といっている。一年たってもまだ家にはひ害のつめあとが残っている。そのあとも西日本豪雨が二〇十八年にあった。そして百五十人以上の人が死亡しぎせいになってしまった。という土砂災害がありました。お母さんは、「夏が来るたびにあのことを思い出して胸が痛みます。」といっていました。それを見て私は、自分で災害は止めることはできないけどもっとそれなりの対策をしようと思いました。たとえば避難場所を確認しておくや災害時にそのまもっていけるように準備しておこうと思いました。カバンの中には水、非常食、簡易トイレ、ふとん、ラジオなどの物を入れようと思いました。最近土砂災害じゃなくじしんか、津波がよくあり七月三十日は、カムチャッカ半島でじしんがおきて津波が日本に来て愛知にも津波けいほうがなり少し小さいけど来ました。豊橋もひなんしじがでていて少しこわかったです。次の日の三十一日は、けいほうじゃないけどまだ注意とかかかれていました。土砂災害もけいかいしているけどじしんや津波もあります。土砂災害は最近見ないけどトカラれっ島のじしんや津波は最近多いので一番注意をしようと思いました。土砂でもじしんでもひなん時のバックはぜったいに準備しようと思いました。

山はちかくなっても土砂災害には十分気をつけて準備しようと思いました。

土砂災害やじしん、津波だけでなくほかにもいろいろな災害があります。私たち人間ではたくさんの災害を止めることはできません。ですが今自分たちができることをしていかなければなりません。いろんな災害に備えて準備してすぐひなんできるようにしましょう。